平成３０年度苅田町社会福祉協議会事業報告書

Ⅰ　総　括

第３次苅田町地域福祉活動計画の最終年であり、次期５ヵ年計画策定の年でもありました。「一人ひとりの生活を支える体制づくり」「地域を支える人づくり」「安心して暮らせる地域づくり」の三つの基本目標のもとでの事業展開は、多くの課題を残しつつも、概ね計画に沿って遂行され良好なものであったと考えられます。次期５か年計画については、町の地域福祉計画との共同作業で策定に取り組み、特に小学校区ごとでの住民による「地区福祉計画」策定には注力しました。生活支援体制づくりとともに、地域福祉活動の新たな基盤づくりを小学校区ごとで始めることが出来ました。

法人運営にあたってはガバナンスの確立が求められる中、理事会による業務執行の意思決定、理事を中心にした委員会による課題解決機能などの強化に配意しました。しかしながら理事会と事務局の課題共有が十分に出来たとは言えず、事務局からの情報提供の在り方などに課題を残しました。また理事会の業務執行をけん制する評議員会においても同様のことが言えます。

職員の資質向上として、外部研修への積極的参加、職員全体研修及び係ごとでのスキルアップに取組んできました。また新たな取組では、支援の必要な人を地域でどう支えるのかを各係が参加して事例を検討する「地域支援検討会議」を毎月開き、スキルアップとともに個別支援と地域支援の融合を図りました。

経営面では、前年度に大きく収支赤字（自立支援給付費部分）となった「くすの木作業所」の改善を重点課題として、経営検討委員会での協議をしてきました。現状の把握と課題の抽出、改善案の検討を行いましたが最終案の決定には至っていません。そこで外部からの人材を採用し、現場において専門的な見地から改革を進めることとしました。また、「在処よってけばぁ」が単年度赤字となり、職員体制の見直しや利用者増の取り組みが急務となっています。ケアプランサービスは比較的安定した経営が出来ております。ただ、福祉職は慢性的な人材不足になっており、欠員補充もスムーズにいかない現状となっています。今後の本会における障害者福祉、高齢者福祉のサービスの在り方を検討する際に、人材確保は大きな課題になると考えられます。

他の事業面では、権利擁護部門において日常生活自立支援事業の市町村委託への移行や、成年後見制度利用促進に伴う中核機関の設置などが決まり、事業形態や周辺環境が変化しつつあります。本会に期待されることも変わる中で、今後の取り組みの方向性を見出していかなければなりません。

以下、重点事業、各事業の状況について報告します。

Ⅱ　重点的な取り組み

活動目標「一人ひとりの生活を支える体制づくり」

(1) 生活支援体制整備事業の推進

第２層協議体づくり

今年度は第１層協議体にて買い物支援について話し合いを進めました。話し合いを進める中で、買い物支援について地区ごとで、関心の高さに違いがあることがわかりました。次年度からは、それぞれの地区住民がの関心のあるテーマを話し合っていけるよう、小学校区圏域に第２層協議隊（つながり隊）を作っていきます。

(2) ふくおかライフレスキュー事業

苅田町社会福祉法人連絡会で生活困窮者支援の必要性について話し合いを進めました。今後は各法人がサポーター養成研修に積極的に参加していくことにしています。この事業は生活困窮者に対する困りごとの中で他制度では補えない部分を担う事業であるため、各関係機関との連携強化も必要となります。

(3) 小地域福祉活動の推進

・「お宝さがし」の小地域での実践

「お宝さがし学習会」という１時間メニューを作り出前講座を行いました。主にはふれあいいきいきサロンの場で開催し、社会参加やご近所付き合いの大切さを理解していただきました。また、サロン参加者のお宝（日常の交流）を取材し、お宝冊子に掲載し見える化に努めました。

・支え合い会議による個別支援

今年度は１４地区での開催となり、昨年度より開催地区が１０地区増えました。支え合い会議を開催することにより、困っていても声をあげられない方の問題に一歩近づくことができています。今後も潜在する福祉的問題の早期発見や課題解決に近づけるようにしていきます。

(4) 成年後見制度利用促進施策への積極的参加

行橋市成年後見制度利用促進委員会へオブザーバーとして参加しました。そこで行橋市、みやこ町、苅田町の１市２町で２０２０年度に本格的に設置される中核機関について情報収集をしました。今後、成年後見制度における苅田町社協としての役割を探っていきます。

※中核機関

成年後見制度において、専門職による専門的助言等の支援の確保や、協議会の事務局など、地域連携ネットワークのコーディネートを担う中核的な機関で、市町村が設置することとなっています。

(5) ケアプランサービス特定事業所加算Ⅱ取得

ケアマネージャを 3 名から 4 名体制にし、特定事業所加算Ⅱを取得する計画でした。しかし、募集に対して応募が少なかったことや、在処よってけばぁの立て直しで人事異動が重なったことから、取得については今後の課題としました。

活動目標「地域を支える人づくり」

(6) ボランティアセンター事業の推進

ＰＲの強化

ボランティアグループの活動が円滑に進むよう、活動支援に重点を置き、問題を把握するために積極的に関わりました。また、ボランティア活動者不足を解消するために養成講座の開催やボランティアセンターの情報提供に力を入れました。また、社協だより「手をつなごう」やホームページ、社協事務室横のボードにチラシを掲示し、ボランティアの募集や講座のお知らせなど、情報発信に心がけました。

(7) 学校における福祉教育の充実

町内の小学校６校、中学校２校、高校１校で福祉教育を実施する事が出来ました。児童・生徒を対象に福祉教育を実施する事により、子どもの時から福祉に興味を持ってもらうメリットがあります。現在、アイマスクや車いすの体験をする授業が主になっており、当事者との交流はあまりありません。各学校と打ち合わせを行い、福祉教育を実施しておりますが、新しいプログラムの受け入れは良くありません。当事者理解をすすめるために、交流をしながら体験もできるプログラムの作成が課題になっています。

(8) ＳＯＳ徘徊ネットワーク活動への協力

主管が苅田町役場に移り、民生委員児童委員へ連絡網での連絡及び SOS メール協力員へのメール配信を苅田町社協が担う事となりました。移行による登録変更のため該当先を訪問し、必要に応じて小地域福祉活動や民生委員等につなぎました。

（9）職員研修の充実

ＰＲ技術、説明力強化

常勤職員を対象に「ファシリテーションの基礎」を一日研修として実施しました。会議や集会などに参加したり、その進行役を担う機会の多い社協の職員としてスキルの向上を図りました。会議の活性化や説明力の強化につながるヒントが得られたと思います。今後は人材育成のための計画的な研修の充実が必要です。

（10）社協会員の増強と社会福祉大会の充実

企業会員の拡大強化、社協会員総会の実施

理事会による企業訪問で会員拡大をすすめました。約 50 社の新規会員の加入を得て、次につながる成果（対前年度 469,000 円増）となりました。また社会福祉大会の実施を会員総会に代えるとしましたが、内容が伴っていない点や周知についても改善の必要があります。

活動目標「安心して暮らせる地域づくり」

（11）「第４次地域福祉活動計画」策定

町地域福祉計画との共同、（期間）平成３１年度～令和５年度

前計画に引き続き、地域福祉計画と地域福祉活動計画は一体的に策定を行いました。策定にあたっては、地域団体等へのアンケートやヒアリングを行い、住民ワークショップにおいても各小学校区にどのような課題があるのか、また解決策についても意見を出し合いました。地域住民の声を反映させることを心掛け「地区福祉計画」の策定につなげました。

（12）社会福祉法人連絡会活動の充実

社会福祉法人連絡会の 4 法人のうち 3 法人の職員が、子育て支援のボランティアグループが実施する子ども食堂の支援を毎月 1 回ずつ行いました。子ども食堂に参加する子供たちが増えても対応できるよう、2 名以上の職員で参加しましたが、積極的な広報は行っておらず、参加する子どもたちが固定化されています。幹事会を 3 回行い、地域における公益的な取り組みの推進について話し合いを進めました。今年度も幹事会を 3 回予定しており、その中で生活困窮者に関する事例検討を行っていく予定です。

（13）くすの木作業所 LAPAN の売上拡大、工賃アップ
製造販売の見直し、新商品の開発

アドバイザー（里山商会：吹上氏）による助言を受けながら、売上拡大に向けて取り組みをすすめてきました。しかしながら、工賃アップにつながる売上には至っていない現状です。商品の製造については、体制に課題はあるもののスキルは高まってきています。販売力、営業力、商品開発力の強化などまだ多くの課題を抱えています。ただ「ＬＡＰＡＮ」の地域に対する周知は徐々に広がっており、そこにどのようなブランドイメージを根付かせるのかが試されます。

Ⅲ　具体的な取り組み

１．地域福祉活動の推進

（１）小地域福祉活動の推進

お宝さがし学習会を１７地区で開催する中で、社会参加の大切さやお宝（日常の交流）の大切さの理解が一定進められました。また、３３地区との懇談会をする中で、各地区の推進上の課題を把握することができました。各地区へのよりきめ細かな支援につなげていきます。

課題としては、小地域福祉活動は見守りを進める活動であり、ふれあいいきいきサロンの推進のみに終始することがないよう、見守りネットワーク協議会や見守り冊子等の作成を通じ、見守りの意識を高めていきたいと考えています。

① 訪問等見守り活動の推進

推進委員証・福祉委員証の配布及び活動の手引きの配布

地区数	推進委員・福祉委員数
３５	７５２

② 支え合い会議の推進（14 地区実施）

包括支援センターや民生委員・区長等同席し、主に一人暮らし高齢者や地域の中の心配な方についての支援の在り方について話し合いました。具体的な支援にまでは至らないケースも多くありますが、地域と専門機関との連携の中で心配な方を見守っていきたいと思います。

地区名	実施日	地区名	実施日
葛川区	６月２０日	西町	１１月５日
松山区	９月６日	片島区	１１月２９日
与原下区	９月７日	岡崎区	１２月７日

若久区	９月２０日	若久２区	１２月１０日
新津	１０月１日	小波瀬区	１月１２日
白石区	１０月３日	長畑区	２月７日
百合丘	１０月５日	桜ヶ丘区	２月１９日

③ 見守りネットワーク協議会

消費者被害を防ぐことをテーマに、各団体がどの様な見守りをしているのか情報交換を行いました。今後は情報交換にとどまらず、今必要とされる見守りの在り方について協議していきたいと思います。

期日	参加委員	内容
８月２７日	１３名	① 報告「苅田町の消費被害の現状について」 ② 意見交換「消費者被害を防ぐために、誰を見守るべきなのか？地域で何をすべきか」 ③ リストに関して
２月２０日	１２名	①見守り活動をする中での気づきの報告（各委員より） ② 報告「消費被害の現状について」（行橋警察署より） ③意見交換「見守りを通して消費者被害を防ぐために」

④ 娯楽ビデオの購入

1	認知症　～早く気づこう！認知症～	6	松竹新喜劇　藤山寛美「大人の童話」
2	認知症　～認知症　あなたはまだよく知らない～		
3	立川談志 ひとり会 落語ライブ 第1巻	7	昭和のお笑い名人芸　ＤＶＤ10 枚組
4	桂枝雀　落語大全　第１集	8	ゴジラ
5	嵐を呼ぶ男	9	御金蔵破り

⑤ 社協だよりにおいて各地区の取り組み紹介

	掲載地区					掲載地区		
４月	港	新津	谷		１０月	松山	集	谷
５月	上町	小波瀬	片島		１１月	白石	今古賀	八田山
６月	若久２	新津	葛川		１２月	中町	片島	百合丘
７月	馬場	松原	与原上	岡崎	１・２月合併号	全３５地区の新年のあいさつを掲載		
８月	長畑	与原下	葛川					
９月	城南	二崎	猪熊		３月	提	尾倉	鋤崎

⑥ 小地域福祉活動推進地区との懇談会（33 地区）

各地区と懇談会をすることで、活動を推進する上での課題の把握に努めました。役員の高齢化や担い手不足もありふれあいいきいきサロンの運営や研修会等への参加が大変だとの声が上がっています。各地区の福祉力向上に向け、地区の活動に専念できるサポート体制が望まれています。

期　日	地区名	期　日	地区名
1月９日（水）１３：００～	馬場	2月８日（金）１１：００～	城南
1月１０日（木）１３：３０～	松原	2月８日（金）１３：３０～	上町
1月１５日（火）１０：００～	岡崎	2月９日（土）１０：００～	緑ヶ丘
1月１８日（月）１１：００～	与原下	2月９日（土）１１：００～	南原
1月２３日（火）１３：００～	桜ヶ丘	2月１０日（土）１３：００～	南原
1月２３日（木）１５：００～	百合ヶ丘	2月１１日（日）１３：００～	法正寺
1月２６日（日）１４：００～	谷	2月１２日（火）１３：００～	新津
1月２９日（火）１０：００～	提	2月１３日（火）１０：００～	二崎
1月３１日（木）１１：００～	今古賀	2月１３日（火）１３：００～	新津
1月３１日（金）１３：３０～	松山	2月１４日（水）１０：００～	小波瀬
2月　1日（月）１０：００～	尾倉	2月２０日（水）１３：００～	白石
2月　1日（金）１９：００～	片島	2月２０日（水）１７：１５～	浜町
2月　2日（月）１１：００～	鋤崎	2月２０日（水）１０：００～	猪熊
2月　4日（月）１３：００～	西町	2月２０日（水）１３：００～	葛川
2月6日（水）１３：３０～	与原上	2月２２日（金）１３：００～	二崎
2月　7日（水）１１：００～	港	2月２４日（日）１１：００～	小波瀬
2月　7日（水）１３：００～	長畑		

⑦小地域福祉活動推進地区連絡会

期　日	場　所	地区数	内　容
3月１２日	パンジープラザ	３０	３１年度の活動の考え方・情報交換

⑧小地域福祉活動推進地区会長会議の開催

小地域福祉活動推進地区の会長を対象に活動上の困りごとや他地区に聞きたい事について意見交換を行いました。会議の中では後継者や活動内容のマンネリ化について多く意見がみられていました。活動内容につきましては地区同士の交流を促し、

実際に交流する地区もみられました。今後の課題としてブロックによって対象地区数にバラツキがあり、ブロックによっては困りごと等の発表時間が短い地区がありましたので、人数の多いブロックはグループ分けをする等の配慮が必要になっています。

期　日	場　所	ブロック	内　容
8月6日	北公民館	北	意見交換(活動上の困りごとや他地区に聞きたい事について)
8月8日	小波瀬CC	中央	
8月9日	西部公民館	南	

⑨未実施地区へのアプローチ（活動の理解推進）

主に、雨窪区・本町区・山口区・稲光区・八田山区にアプローチを行い、八田山区で活動を開始することとなりました。

⑩お宝探し学習会の開催（17 地区）

ふれあいいきいきサロンにおいて学習会を開催しました。学習会では、フレイルやサルコペニアにならないためにどうすればいいかを話す中で社会参加の大切さの理解に努めました。楽しい内容にしてほしいとの要望もあり、次年度は楽しく学べる内容を検討していきます。

期　日	地区名	期　日	地区名
４月１５日	小波瀬	１０月２７日	片島
５月１１日	若久２	１０月１５日	西町
６月９日	南原	１０月２８日	上町
６月２０日	白石	１２月１０日	与原下
６月２２日	若久	１月２３日	桜ヶ丘
７月１９日	若久	１１月１０日	城南
９月６日	岡崎	２月１３日	新津
１０月１０日	浜町	３月９日	中町
１０月２１日	松山		

⑪小地域福祉活動検討委員会

小地域福祉活動の助成金の出し方について検討しています。ふれあいいきいきサロンの参加人数実績に応じた部分が助成金に組み込まれる方法を探っています。今年度の会議では、ふれあいいきいきサロンの定義やミニサロンの定義が主に話し合

われました。次年度は具体的に数地区で検証を行います。（委員会開催状況については“組織運営・総務業務”に別記）

⑫好事例集の作成

小地域福祉活動　こんなことやってま集	１０００部作成

（２）福祉教育の推進

地域福祉セミナーでは、老い支度を学ぶ中で社会参加していくことの大切さを学びました。しかし現実的には、家に閉じこもりがちな方にこの様な情報が届くにくく、参加した皆様からの口コミが広まる事に期待をしています。福祉入門教室「認知症に優しい町を作ろう」では、講座終了後認知症の人を支える活動に取り組みたいと考えましたが、活動することに賛同してくれた方は１名のみとなりました。

①地域福祉セミナー

期日	場所	参加者	内容
6月5日	パンジープラザ 集団健診指導室	１２７	講演会「老い支度～健康寿命＆認知症への準備＆終活」 講師：老い支度普及センター 老い支度クリエーター　石黒秀喜さん

②福祉入門教室

Ⅰ「認知症に優しい町を作ろう-認知症を学び、認知症の人を支えよう-」

期日	テーマ	講師	参加者
6月12日(火)	認知症になっても、地域での生活を継続するために。	特別養護老人ホーム 介護部長　上村尚之さん	７７
6月26日(火)	認知症の人や家族の気持ちを知ろう。 苅田町における認知症の取り組みやサービスを知ろう	・小波瀬ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ館長 長谷川美和子さん ・介護を考える会「なの花」 代表　古賀一晴さん ・有償ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ「ミモザの会」 代表　中谷禮子さん ・苅田町地域福祉課職員	８３
7月10日(火)	聴き上手は支え上手 「傾聴」の基本を学ぼう！	小波瀬ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ 館長　長谷川美和子さん	５５

Ⅱ「夏休み子どもボランティア体験講座」（ボランティアセンター事業として開催）

期日	テーマ	講師	参加者
8月20日(月) 8月21日(火) 8月22日(水)	夏休み子どもボランティア体験講座	・九州防災パートナーズ 代表理事　藤澤 健児 氏 ・北九州市立大学 特任教授　村江 史年 氏	１４

Ⅲ「福祉入門教室」

期日	テーマ	講師	参加者
1月19日(土)	災害に備える力を身につけよう	九州防災パートナーズ 代表理事　藤澤 健児 氏	５４
2月2日(土)	ひきこもりについて考えよう ※別枠	北九州市ひきこもり 地域支援センター　すてっぷ センター長　和田 修 氏	３３

③認知症サポーター養成講座

期日	受講者	参加者
７月４日	新津中学校３年生	１５１
７月２０日	緑ヶ丘区小地域福祉活動	２１
７月３１日	ミモザの会	１８
１０月１０日	馬場小学校４年生	６０
１１月２８日	葛川区小地域福祉活動	３３
１２月１３日	苅田中学校１年生	１７９

（３）福祉教育推進校活動の推進

町内全校（小学校6校・中学校2校・高校1校）で福祉教育を実施する事ができました。小学校では福祉教育の授業で学んだ事を全校生徒に向けて発表したり、低学年に指導したりして校内でも福祉教育を広めていく学校が増えています。

障がい者との交流を希望される学校がありましたが、学校の希望日と当事者の方の日程の調整が上手くいかずに、未実施に終わりました。当事者との交流につきましては、少人数であれば調整が可能ですが、大人数での交流となると調整が難しくなるので、上手く調整する事が課題になっています。

① 福祉教育プログラムの充実

今年度、白杖体験は行わずにユニバーサルデザインを採用した商品の活用をアイ

マスク体験の際に行ったり硬貨の選別体験を行ったりして、当事者の方がどうのように生活されているのかがわかるような体験を取り入れました。また、ボランティア講座として災害ボランティアについて講師を調整し、講演を行って頂きました。

② 福祉教育推進校研修会

事業名	内　　容
福祉教育サポートボランティア連絡会	５月「平成 30 年度福祉教育の振返り、福祉教育サポートボランティアとは」 苅田町社会福祉協議会より 「車いす体験・アイマスク体験」 福岡県地域介護実習・普及センター職員より
苅田町社会福祉大会	福祉教育推進校表彰
福祉教育推進校連絡会	３月１８日 教育総務課、苅田町内８校、主任児童委員２名出席 ３０年度活動報告、情報交換 ３１年度の福祉教育の取組みについて 事務手続きの説明 福祉教育プログラムについて 福祉教育教材「ともに生きる」の紹介

③ サポートボランティアへの支援

サポートボランティアの方に向けて福祉教育サポートボランティア連絡会を開催し、サポートボランティアとはについて話をしたり、講師を招いて車いすやアイマスクの体験の方法について説明したりして頂きました。また、新規のサポートボランティアの方が来られたり、久しぶりの方が来られたりした場合にはベテランの方と一緒に子どもたちのサポートに入ってもらい、慣れるまでは極力一人にならないように配慮しました。

④ 福祉教材、資材の充実と活用

日ごろ身近にある資材(シャンプー・リンス・缶等)を寄付してもらい、ユニバーサルデザインを採用した商品を確保し、実際のアイマスク体験の際にアイマスクをした状態で見分けられるか等で活用しました。

⑤学校での福祉体験学習内容

学校名	学年	人数	実施月	内容
苅田工業	全	472 名	10 月	『ボランティア講座』講話

高校	学年			災害ボランティアについて 藤澤健児さん講話
苅田中学校	1 年	179 名	12 月	・認知症サポーター養成講座
新津中学校	1 年	121 名	10 月	『防災学習を通して地域住民と異年齢交流』 ・近年の災害について ・防災クイズ ・段ボールベッドの作成
新津中学校	3 年	151 名	7 月	・認知症サポーター養成講座
苅田小学校	4 年	106 名	6 月 9 月	・視覚障がい者講話 ・アイマスク体験 ・車いす生活者講話 ・車いす体験 ・手話体験
馬場小学校	4 年	61 名	9 月 10 月	・視覚障がい者講話 ・アイマスク体験 ・車いす生活者講話 ・車いす体験 ・点字体験 ・手話体験 ・認知症キッズサポーター養成講座
南原小学校	4 年	60 名	6 月	・視覚障がい者講話 ・アイマスク体験 ・車いす生活者講話 ・車いす体験
与原小学校	4 年	105 名	6 月	・視覚障がい者講話 ・アイマスク体験 ・車いす生活者講話 ・車いす体験
片島小学校	4 年 5 年	10 名 12 名	1 月	・視覚障がい者講話 ・アイマスク体験 ・車いす生活者講話 ・車いす体験
白川小学校	4 年	12 名	11 月 12 月	・視覚障がい者講話 ・アイマスク体験 ・車いす生活者講話

				・車いす体験 ・点字体験 ・手話体験

（４）ＳＯＳ徘徊ネットワーク活動の推進

社協独自の模擬訓練を行い、メール協力員全員にメールを送信しました。また事務所内の職員が対応できるよう独自のマニュアルを作成し、非常時に備えることとしました。

①苅田町徘徊高齢者等 SOS ネットワーク事業への協力（メール協力員の強化）

社協広報誌でメール協力員の募集を掲載し、今後は地域に出向いた際にお声掛けをして協力者数の増加に取り組んでいきます。

SOS 登録者数　75 名	メール協力員数　125 名	発信回数　3 回

②地域における見守りの強化

小地域等の見守り会議等で、苅田町徘徊高齢者等 SOS ネットワーク事業への登録が必要と思われる方はいないかを確認していきます。また、該当者がおられた場合、地域の方々にも平常時の見守りや、徘徊時の捜索に協力してもらえるよう働きかけていきます。

（５）障害者団体連絡会の活動支援

障がい者スポーツレクリエーション祭では、外国人の方によるボランティア参加があり新たな交流の輪が広がりました。障害者団体と行政との懇談会では、障がい児への支援の在り方について話し合う事が出来ました。学習会の開催はしませんでしたが、社協主催の研修会に積極的に参加することにしました。新たな取り組みを増やす方向にはありませんが、毎年の取り組みの充実を図っていけるよう今後も支援していきます。

障がい者連絡会活動の支援の状況

開催日	会議・行事名	内　容
６月　６日	連絡会①	年間活動計画づくり
９月　５日	連絡会②	スポレク・要望書・懇談会
９月２６日	連絡会③	要望書作成
１０月８日	障がい者スポーツレクリエーション祭	障害者の社会参加促進や健康づくり
１１月１３日	啓発活動	福祉大会にて広宣物の配布

１１月２１日	懇談会	行政との懇談会
１２月　２日	啓発活動	人権講演会にて広宣物の配布
３月　１日	連絡会④	

（６）子育て支援

①子育てネットにじいろの支援

毎月の外遊び（プレイパーク）の部屋申請や備品の貸出を行い、側面的な支援を行っています。また必要に応じて相談対応をし、若いお母さん達が活動しやすいよう他の団体に啓発を行っています。

項目	回数	参加者数	内容
子育てﾏﾏ支援隊「にじいろ」	１２回	延べ８０人	親子で外遊び(ﾌﾟﾚｲﾊﾟｰｸ)他

（７）福祉団体の活動支援

介護を考える会なの花の活動について、役員会に参加し必要に応じて、地域交流会の際の講師の調整や新年のつどいの内容の調整等で支援を行いました。地域交流会では西日本工業大学の竜口先生より「認知症の方の住宅改修について」話をして頂き、竜口先生の研究にもアンケートの回答という形で協力していました。なの花の交流会や新年のつどいでは多くの会員さんが参加され、お互いに良い交流の場になっているようでした。また、毎月第２土曜日にカフェさくらを開催しており、カフェさくらにおいてはコミュニティバス等で来る事が難しい方を対象に送迎の手伝いをしています。送迎支援につきましては、運転ボランティアの方で対応できないか等の課題があります。

① 福祉団体の活動支援の状況

開催月	内容	開催月	内容
４月	定期総会参加・部屋調整等	10 月	なの花のつどい備品貸出・部屋調整
６月	地域交流会参加・部屋調整	12 月	地域交流会部屋調整
７月	施設見学(元気回復サロン合同)	１月	新年のつどい(元気回復サロン合同)
９月	地域交流会部屋調整		

（８）有償サービスの仕組みと居場所づくりの研究と実施

有償サービスおたすけ“虹の会”活動の推進を図り、視察研修や学習会を行いました。また、外部からの視察研修の受け入れも行いました。

活動件数　　645 件
主な活動内容　　食事支援 157 件　室内清掃等 128 件
　　話し相手 123 件　買物補助　　97 件

①学習会、視察研修、視察受入

日時	場所	内容
６月３０日	芦屋町	芦屋町「あしたの会」講演会で虹の会より実践者報告
７月２３日	パンジープラザ	介護保険制度についての学習会
８月２３日	パンジープラザ	北九州市より視察受入
１０月２９日	春日市	春日市「たんぽぽの会」へ視察研修
２月６日	八幡東区	地区社協会長会議内で虹の会の説明
２月７日	パンジープラザ	添田町社協職員、役員会への視察受入
３月８日	パンジープラザ	町内のケアマネージャー連絡会にて虹の会の紹介
３月１５日	パンジープラザ	添田町「井原お手伝いの会」役員視察受入

②有償サービス虹の会役員会議

毎月１回開催

有償サービス活動を円滑に進めるために課題を共有し、利用者状況報告やケース別活動報告をし、情報の共有をしてきました。また視察研修や受入についても対応を協議し、視察研修、受入の際に使用する虹の会の紹介資料（パワーポイント）を作成しました。

③成果と今後の課題

利用会員１８６名（２３名増）　協力会員５９名（２名増）が登録してくれ賛助会員５４名に協力していただきました。

新たに６０代の男性協力会員を数名確保することができ、今後の積極的な活動への参加に繋げていきます。また、町内のケアマネージャに向けて虹の会の紹介を行いました。今後も適宜チラシを配布するなど、周知に努めていきます。

（９）高齢者・障害者の閉じこもり防止

毎週水曜日（白川地区）と金曜日（苅田地区）に移動サロンとして活動を行い、近所にスーパーや商店街がなく、車両を保有していない世帯を対象に閉じこもりの防止に努めました。白川地区につきましては口コミで徐々に登録者も増えてきていますが、苅田地区についてはあまり浸透していないのか、まだまだ登録者は増えていません。苅田地区の登録者と運転ボランティアの確保に課題があります。

① 利用該当者への周知

日産からのリース期間終了年で期間終了後の車両についてどうなるかわからない状況にありましたので、積極的には周知活動を行っておりません。白川地区におきましては口コミや包括支援センターの紹介により登録者数は増えています。

② 運転ボランティアの登録人数確保

運転ボランティアの確保につきましては、社協だよりに運転ボランティア募集の記事を掲載し運転ボランティアの確保に努めましたが、新規の登録者は増えず、現在登録して頂いている２名の方を中心に、他事業の運転ボランティアの方にもご協力頂きながら、運行しております。

（１０）不登校・ひきこもり当事者と家族支援

今年度は、ひきこもり支援の先進地である秋田県藤里町社協及び北九州市ひきこもり地域支援センターすてっぷを招き講演会を開催しました。ひきこもりの現状や取り組みへの理解が一定進められました。またすてっぷとは今後もひきこもり支援における連携をしていきたいと思います。

（１１）社協だより手をつなごうの発行

4 月～3 月までの合計 11 回(1・2 月は合併号)、社協だよりを発行し、講座や研修の案内をしたり社協の事業や取り組みについて報告をさせて頂いたりしております。社協だよりを見て講座の申し込みがあったり、記事についての問い合わせがあったりして社協だよりで案内等をのせる効果はみられています。社協だよりの掲載記事の内容についてはもっとわかりやすくする工夫が課題として残っています。

（１２）ハンディキャブ貸出事業

身体の不自由な方を対象に、現在 44 名の方が登録されていて、月平均 10 回程度貸出をしています。利用者全員が運転手を自分で確保することが出来ず、運転ボランティアの調整が必要です。毎月第 1 月曜日に定例会を開催し、調整しております。登録者が施設入所したり亡くなられたりして減少しております。今後の課題としては必要な人に情報が行き渡るような広報が必要です。

（１３）介護家族支援元気回復事業「元気回復サロン」の実施

在宅で介護されている方を対象にリフレッシュを目的とした内容を考え、月に 1 回サロンを開催しております。今年度は歯医者の先生を講師にお呼びして口腔指導を行ってもらったり、社協職員から健康長寿について話をしたりして、介護者の健康についても意識した内容にしました。参加者の皆さんからは月に 1 回集り、色々

な方と話す事でリフレッシュができると皆さん楽しまれて帰って行かれます。課題として登録者の確保があります。事業所に呼びかけを行っておりますが、事業所からの紹介はほとんど見られず、参加者からの口コミが主になっています。参加者の方からは参加するには知り合いがいないと難しいとの意見も聞かれていますので、いかに参加しやすい環境を作り、参加者を確保していくか考えていかなければなりません。

①家族ニーズを取り入れた交流会の実施

家族のニーズにつきましては、毎年年度末に参加者の皆さんと一緒に計画を立て、参加者の方の意見を取り入れています。また、毎月参加者の方へは往復はがきで案内をしておりますが、その中でも自由記載の欄を設けて、希望等の意見が書けるようにしています。

②要介護者家族に参加を呼びかけ、登録者の確保

年度初めにデイサービスやケアマネージャの事業所に参加者募集のチラシを配り、呼びかけを行っておりますが、効果は見られず、今年度の新規利用者は増えておりません。しかし、参加者の方からの紹介で興味を持ってくれる方もいらっしゃり、少しでも多くの方に参加してもらえるようにしていきます。

③開催状況

月日	場所	参加数	行事内容
4 月 18 日	パンジープラザ	8 名	健康長寿について講話・現状報告会
5 月 16 日	パンジープラザ	11 名	口腔指導について
6 月 20 日	パンジープラザ	10 名	脳トレ（コミュニケーション麻雀）
7 月 11 日	添田町	11 名	めんべい工場見学
8 月 22 日	パンジープラザ	11 名	レクリエーション大会
9 月 19 日	ミモザの会	11 名	意見交換会
10 月 17 日	パンジープラザ	12 名	健康体操・セラピューティックケア
11 月 28 日	添田町	9 名	英彦山
12 月 19 日	パンジープラザ	10 名	クリスマス会
1 月 30 日	パンジープラザ	12 名	新年の集い
2 月 20 日	パンジープラザ	12 名	来年度計画について
3 月 6 日	豊前市	11 名	日帰りバスハイク

（１４）配食サービス

サービス提供は、毎週月曜日から土曜日まで毎日行っており、豪雨や台風も原則

休むことなく実施しています。業務としては夕食用の弁当製造・配達に加え、手渡しでの安否確認を兼ねています。今年度のサービス実績は延べ１５，６４１食でした。利用者の声として、毎日配達して頂きとても助かっています。薄味で美味しく頂いています、など喜びのお声を頂きました。

課題の一つとしては、調理スタッフのシフト体制があります。調理スタッフの事情により、少ない人数で対応せざるを得ない日があり、一部のスタッフに負担が大きくなっています。小学、中学生のいる調理スタッフも多く、学校行事や子供さんの体調不良で急遽休む日などの対策が必要です。

ベテランの調理長が退職となり、毎月のメニュー作りなどにも課題があります。

（１５）生活支援体制整備事業の推進

今年度は、第１層協議体で「買い物」について協議体メンバーと一緒に各地域へアンケートに回りました。その結果、苅田町内における「買い物」についての現状が見えてきました。それにより、「買い物」については地域ごとで温度差や、地域性（課題の違い）があることがわかりました。これまで第１層協議体は苅田町全域のことを各小学校区に分かれて話し合ってきましたが、今後は第２層協議体（小学校区ごと）で話し合いを行っていき、年に２回第１層協議体を開催し第２層協議体の動向を報告しあい、苅田町全体の課題を抽出していく予定です。「お宝探し」は今年度各小地域福祉活動のいきいきサロンにて「お宝学習会」を行いました。健康長寿を題材に、「社会参加」の大事さを伝えるとともに、日頃の何気ない交流やご近所づきあいが「社会参加」の第一歩であり、意識しないで行っている「支え合い」になり、それが「お宝」だということを伝えてきました。その結果、昨年度に比べると「お宝」が浸透してきていると感じますが、今年度小地域福祉活動を行っていない地域で「お宝学習会」を行うことができなかったのが課題として残りました。

①第１層協議体（つながり隊）

開催日	場　所	人数	内　容
５月１５日	パンジープラザ	３０	・お宝探しの報告 ・つながり隊の当面の取り組みと今日のねらい ・買い物に関する事務局による調査など報告 ①コーディネーターによる地域アンケート ②移動サロンの近況報告 ③グリーンコープ移動販売撤退

			の経緯 ・グループべつの話し合い ①調べる方法を最低２つ決める ②調査方法を実行する具体案を作る
８月３日	小波瀬コミュニティ	２４	・前回のふり返り ・買い物に関する校区ごとの調査結果について ①事務局の調査報告と調査結果に対する感想 ②各班の調査と結果に対する感想 ・役場・地域福祉課から 上野係長による「介護保険の話」 ・グループワーク　テーマ『買い物』に関して今後の取組み
１０月２５日	三原文化会館	２７	・前回のふり返り ・コミュニティシンクタンク北九州西村さんによる活動事例報告「北九州市の取り組み」 ・コーディネーターによる「苅田町主要スーパーの買い物支援サービス」の説明 ・セブンイレブンによる「セブンミール」の説明 ・お宝探し経過報告 ・グループワーク　「買い物」についての今後の取り組みについて
１月２８日	三原文化会館	２９	・前回のふり返り ・来年度の進め方について ① 今年度のふり返り ② 来年度に向けて ・グループワーク「買い物支援のまとめ及び今後の取り組みについて」

３月２７日	三原文化会館	２７	・前回のふり返り ・来年度に向けて ・他市町の活動報告 ①「北九州市泉台校区における取り組み」 小倉北区社会福祉協議会事務局長　小池さん ②「水巻町第２層協議体の推進について」 水巻町社会福祉協議会地域担当　梅本さん

②ベース会議

第１層協議体（つながり隊）を円滑に進めていく為に、行政・包括・社協・生活支援コーディネーター・アドバイザーで、事前に次回開催する協議体の進め方について話し合い、前回の反省を行ってきました。

開催日	場所	内　容
４月４日	苅田町役場	・地域アセスメントの実施について ・第 5 回つながり隊の内容と生活支援コーディネーターの取り組み
５月２５日	苅田町役場	・「買い物」に関する調査、各グループの取り組み ・調査結果を受けて次への展開 ・体制整備事業の今後の展開
７月１８日	苅田町役場	・「買い物」に関する調査結果の評価、分析 ・第６回つながり隊について
８月２８日	苅田町役場	・「買い物」に関する取組みの継続について ・今ある買い物に関する社会資源の調査 ・第７回つながり隊について
１０月２３日	苅田町役場	・校区福祉計画、校区活動計画とつながり隊の位置付け
１１月６日	社協応接室	・体制整備事業のアドバイザーについて ・協議体の今後の進め方について
１２月７日	苅田町役場	・第１層つながり隊の役割について

		・地域力強化推進事業と生活支援体制整備事業の関係 ・校区活動計画推進母体の強化について
１月３０日	苅田町役場	・第２層つながり隊の起動に向けて ・苅田小学校区の取り組みについて ・第８回つながり隊について
２月２７日	苅田町役場	・お宝発表会と CLC との意見交換会について ・第９回つながり隊について ・買い物支援に関する苅田小学校校区の活動について ・第１層第２層つながり隊及び地区福祉活動計画の推進について
３月２７日	三原文化会館	・各小学校区つながり隊の活動状況 ・各小学校区つながり隊広報について ・お宝探しについて

③アドバイザーの状況

Office　Nishimura　西村健司氏

12 月 7 日（ベース会議）	事業推進に対する助言
1 月 21 日（打合せ）	苅田小校区の取組について
1 月 30 日（ベース会議）	事業推進に対する助言
2 月 22 日（打合せ）	苅田小校区の取組について
2 月 27 日（ベース会議）	事業推進に対する助言
3 月 19 日（打合せ）	アンケート内容の原案を作成してもらう 北九州市における買い物支援の状況説明をうける
3 月 27 日（ベース会議）	事業推進に対する助言

④地域アセスメントの実施

数か所の小地域福祉活動の定例会やサロンに参加しアセスメントを行いましたが、すべての地域で行うことができませんでした。すべての地域で小地域福祉活動が行われているわけではないので、行っていない地域でどのようにしてアセスメントを行っていくのか課題が残っています。

⑤お宝探しの推進（16 か所）

・お宝取材

取材日	地区	お宝名
4 月 10 日	浜町	日舞会
4 月 19 日	総合体育館	足ぢからつけ隊
4 月 26 日	新津	野菜作り健康法
5 月 11 日	城南	お野菜作ろう
5 月 14 日	上町	上町グラウンドゴルフ
5 月 28 日	片島	あすなろ会
6 月 1 日	上町	絵画教室（ミモザの会）
6 月 13 日	若久２	ミヤザキガーデン
7 月 25 日	新津	教えを学ぶ女性念仏講の集い
9 月 7 日	白石	白石女子会
10 月 24 日	葛川	葛川男の料理教室
10 月 30 日	西町	福寿会グラウンド同好会
11 月 5 日	西町	こぶし会（カラオケ）
11 月 15 日	南原	太極扇
11 月 28 日	与原上	ペタンク
12 月 20 日	長畑	ながまるカフェ

・お宝発表会の開催

平成 31 年 3 月 12 日（火）お宝発表会と小地域福祉活動連絡会を同時開催しました。

・お宝冊子の作成、配布

日常の交流の大切さの啓発として「お宝冊子」を作成して、お宝の取材をさせて頂いた方々、老人クラブ、民生委員・児童委員、小地域に配布しました。

冊子『お宝探しで見つけた苅田町の支え合い』	１０００部作成

配布月日	配布先
3 月 12 日	お宝発表会にて
3 月 22 日	苅田町老人クラブ連合会
3 月 22 日	民生委員・児童委員
3 月 27 日	第 1 層つながり隊
3 月 29 日	本町老人クラブ

（１６）総合相談体制づくり

単に相談窓口を開設することだけではなく、福祉問題の発見から解決に向けての一連の過程のイメージの共有までで、総合相談の体制が具体化されていない現状です。

（１７）第４次地域福祉活動計画策定

第３次計画の基本目標を踏襲し、「一人ひとりの生活を支える体制づくり」「地域を支える人づくり」「安心して暮らせる地域づくり」を柱に、基本方針と具体的取り組みを構成しました。具体的取り組みでは、行政、社協、住民・地域の３つの立場での活動を明確にした上で、連携についても明示しました。

活動の実践について、特に住民や地区の活動が「住民任せ」にならないように行政や社協、関係機関の支援の在り方が重要となります。また出来た計画に対し、進捗管理を厳格にする意味で、社協内での進捗管理委員会の設置が必要です。

①地域福祉活動計画策定委員会（行政との共同委員会）

開催日	場所	内　容
４月２３日	三原文化会館	評価について・ヒアリングについて
６月１日	〃	ヒアリング・アンケートについて
９月４日	〃	ワークショップ、地区福祉計画について
１１月２日	〃	地区福祉計画・地域づくりセミナーについて
１月１７日	〃	計画書の訂正について、地域懇談会について

②住民ワークショップ

住民ワークショップでは、５つのテーマ（①地域を支える人づくり②防犯・防災の地域づくり③地域交流の場・居場所づくり④子ども育成・子育て支援⑤健康づくり）に分かれ話し合いを重ねました。話し合いでは、現状問題点・原因・どのような取組が必要かについて話し合いました。

開催日	開催日	開催場所	参加延人数
苅田小学校区	6 月 24 日/7 月 8 日/7 月 22 日	北公民館	７９
馬場小学校区	6 月 24 日/7 月 8 日/7 月 22 日	中央公民館	２１
南原小学校区	6 月 24 日/7 月 8 日/7 月 22 日	三原文化会館	５３
与原小学校区	7 月 1 日/7 月 15 日/8 月 5 日	小波瀬ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	８２
片島小学校区	7 月 1 日/7 月 15 日/8 月 4 日	片島ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	４８
白川小学校区	7 月 1 日/7 月 15 日/8 月 5 日	西部公民館	１６

③団体ヒアリング

計画を策定するにあたり、各福祉団体がどの様な課題を抱えているのか、またどのような地域課題を感じているのかのヒアリングを行いました。団体の担い手の確保が難しかったり、活動を企画しても参加してくれる人が少なかったり等の課題が出されました。

苅田町身体障害者福祉会	苅田町手をつなぐ親の会
ｃｏｃｏｌｏｎ	互交会
苅田町ボランティア連絡協議会	苅田町介護を考える会『なの花』
住民参加型有償サービスお助け虹の会	子育て支援隊にじいろ
地域団体つむぐ。	希色カフェ
有償ボランティアミモザ	苅田町老人クラブ連合会

④地域懇談会

地域懇談会では、各小学校区で策定された地区福祉計画を小学校区民に広く知ってもらうことを目的に開催しました。

開催日	開催日	開催場所	参加延人数
苅田小学校区	１月１６日	北公民館	２０
馬場小学校区	１月１８日	中央公民館	１９
南原小学校区	１月２６日	三原文化会館	１２
与原小学校区	１月２６日	小波瀬ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	９
片島小学校区	１月２６日	片島ｺﾐｭﾆﾃｨｾﾝﾀｰ	２８
白川小学校区	１月１９日	西部公民館	３０

⑤地域づくりセミナー（地域福祉課・協働のまちづくり課と共同開催）

期日	場所	参加者	内容
２月１６日	西日本工業大学	１４０	報告「地域福祉計画の概要について」 苅田町地域福祉推進委員長・報告のまとめ 福岡県立大学　准教授村山浩一郎氏 地区福祉計画の発表 ・苅田小学校区　高村　保六さん ・馬場小学校区　田中　政行さん ・南原小学校区　中井　清美さん ・与原小学校区　福本　晋八郎さん ・片島小学校区　松本　洋一さん ・白川小学校区　古谷　加代子さん

２．ボランティアセンター活動の推進

（１）ボランティアセンター基本機能の充実

①ボランティアセンターの周知

社協だよりや社協事務室横のボードにチラシを掲示し、ボランティアの募集や講座のお知らせなどの情報を発信しました。若い世代のボランティア人口を増やすため、ホームページやフェイスブックなどを活用した周知にも取り組んでいきます。

②ボランティア室の活用

新しく立ち上がったボランティアや若い世代のボランティアが使いやすいように部屋の利用についての心得を掲示しました。また、ボランティアをリタイヤした方々の集いの場として提供していきたい交流の場としての機能をもたせたいと考えています。

③ボランティアニーズの把握

ボランティアグループとの懇談会を行い、グループの抱えている問題やニーズの把握に努めました。また、３つある傾聴グループの同士の交流会を行い、情報交換の場を設定し大変喜ばれました。

④ボランティアグループの支援

グループの活動支援のために、積極的に関わり問題把握に努めました。また、ボランティア連絡協議会に所属しているグループが６団体と少ないため、ボランティア同士で交流する場がなく、フォローアップ講座等を開催し、情報交換の場を意識的に設けました。

	グループ名	定例会
1	苅田町ボランティア連絡協議会	第１月曜 14：00～
2	ハンディキャブ（ボラ連）	第１火曜 13：00～
3	すみれ会（ボラ連）	第１金曜
4	苅田朗読会（ボラ連）	毎月２回
5	苅田点訳会（ボラ連）	毎月２回
6	かんだ手話の会（ボラ連）	毎週金曜 昼 10：00～ 夜 19：30～

	グループ名	定例会
14	傾聴アイリス	第１水曜 13：00～
15	かんだ健康隊	第４木曜 9：30～
16	わすれな草の会	第２火曜 10：00～
17	ハッピーハンド	第２月曜 15：00～
18	一木会	第１木曜 9：00～
19	認知症予防グループはなみずき	第 1.3 木曜 11:30～

7	スマイルクラブ（ボラ連）	第１水曜 10：00～		20	お手玉の会し合わせ	第１水曜 10:00～
8	手話サークル ひまわり	毎週木曜 10：00～		21	子育てﾏﾏ支援隊 「にじいろ」	毎月１回
9	缶・カンクラブ	第４土曜 9：30～		22	傾聴ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ「ほほえみ」	第２水曜 15：00～
10	たんぽぽ	第１火曜 10：00～		23	つむぐ。	随時
11	チーム愛	第２火曜 13：30～		24	花サロン	随時
12	傾聴ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ らびっと	第３火曜 10：00～		25	ガイドの会	第３水曜 18：00～
13	託児ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ くれよん	第１月曜 10：00～		26	ふわりん	第２木曜 15：00～

（２）ボランティアの養成・研修・顕彰

①ボランティアの養成

講座名	期　日	場　所	受講者数	継続・登録
手話奉仕員養成講座	４月１７日～３月１２日 （全４５回）	パンジープラザ	８名	５名
セラピューティック・ケアによるボランティア養成講座	７月２日	パンジープラザ	１５名	５名
バルーンアートボランティア養成講座	１０月１０日、１０月２４日	パンジープラザ	１５名	１５名

②ボランティア体験学習

夏休み子供ボランティア体験学習

期日	場所	参加者	内　容
８月２０日 ８月２１日 ８月２２日	・パンジープラザ ・福岡県朝倉市 ・パンジープラザ	１４名	・防災ゲーム、防災グッズづくり（NHK 取材）、 ・松末小学校、杷木老人福祉センター ・模造紙で取組を作成、 学んだ事を発信（町長・消防長・交番）（図書館等掲示）

③ボランティア研修

ボランティアフォローアップ

期日	場所	参加者	内　容
３月７日	パンジープラザ	３０名	・講義 「ボランティアが横につながる事の意義について」 講師 福岡県立大学准教授 村　山　　浩　一　郎　　氏

④ボランティア顕彰

第５回苅田町社会福祉大会でボランティア功労者や団体を表彰しました。今後も社会福祉大会でボランティアの功績を讃えていきます。

⑤コーディネート件数

活動依頼別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
託児	件数	2	7	7	7	4	10	30	30	8	7	5	6	123
	人数	4	25	26	20	11	24	77	97	23	23	9	18	357
個人（調髪等）	件数				1	1							2	4
	人数				1	1							2	4
施設	件数						1	1		1	1		2	6
	人数						10	2		1	5		10	28
団体	件数	1			1									2
	人数	2			4									6
小地域	件数							1			1			2
	人数							6			1			7
学校	件数			1			2			2				5
	人数			9			12			12				33
計	件数	3	7	8	9	5	13	32	30	11	9	5	10	142
	人数	6	25	35	25	12	46	85	97	36	29	9	30	435

３．あんしんセンター活動

（１）日常生活自立支援事業の充実

各関係機関と連携を強化し、新規の利用者が増えました。成年後見制度までの一時的な利用もあり、金銭管理が困難な人に対する迅速な対応を行うことができました。一方で、周囲の人が利用を勧めても本人が金銭管理の利用を拒む場合、契約へと結びつけることが困難であることが課題です。

<table>
<tr><td colspan="6">契　約　者　数</td><td>援　助
回　数</td><td>相談
問合わせ件数</td></tr>
<tr><td></td><td>認知症</td><td>知 的 障
害</td><td>精 神 障
害</td><td>その他</td><td>合　計</td><td rowspan="5">３１６</td><td rowspan="5">１７</td></tr>
<tr><td>件数</td><td>6</td><td>2</td><td>6</td><td>2</td><td>１６</td></tr>
<tr><td colspan="6">解　約　者　数</td></tr>
<tr><td></td><td>認知症</td><td>知的障
害</td><td>精神障
害</td><td>その他</td><td>合計</td></tr>
<tr><td>件数</td><td>2</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>5</td></tr>
</table>

（２）成年後見制度の利用支援

司法・福祉多職種連絡会で事例を通して成年後見についての知識を深め、関係機関との連携もスムーズに図ることができました。また社協・包括連絡会で各機関の役割を確認し利用者に対してスムーズな対応ができるように話し合いました。

今後は、専任職員がいないため多くの受任件数を持てない状況の中、「社協にお願いしたい」という希望にどれだけ答えられるかが課題です。

①制度についての相談、勉強会の開催

10 月 30 日　成年後見研修会「任意後見と遺言について」　　26 人出席

講師　ゆくはし総合法律事務所　　弁護士　　岡　直幸

③ 法人後見の受任

１２人の方を受任し、来年度は２件の受任予定があります。それぞれの方が落ち着いた生活ができるようにケア会議等に出席し、各機関と情報を共有し支援しました。関係機関からは受任依頼が数件ありました。今後、後見受任の依頼にどこまで受任できるのかが課題です。

③成年後見等運営委員会の開催

第 1 回 8 月 22 日・第 2 回 2 月 20 日

出席者：弁護士、医師、地域福祉課長、社会福祉士

内容：後見受任の可否、報告、日常生活自立支援事業の契約、報告等

④多職種連絡会の開催

偶数月に開催　　参加者平均人数　　14 人

出席者：弁護士、司法書士、社会福祉士、包括支援センター、社協職員

内　容：参加事業所からの困難事例検討

⑤包括支援センター連絡会の開催

毎月　1 回開催

出席者：各包括支援センター職員、あんしんセンター係

内容：事例検討、各機関の連携について

⑥成年後見事業関係機関連絡会の開催

1 月 23 日

出席者：福岡家庭裁判所行橋支部、古賀弁護士、久篠司法書士、地域福祉課、包括支援センター、社協職員　　計　14 人出席

内容：家庭裁判所の現状、成年後見申立て等について協議

（３）エンディングプラン事業

終活セミナーを開催しましたが、第 1 回目が台風により 9 月に延期になったため参加者が伸び悩みました。

９月４日　　１４名　「葬儀とお墓について」

９月１１日　２４名　「相続と遺言について」

講師　　上級終活カウンセラー　　真武　純哉　氏

（４）障害者相談支援事業の充実

役場や包括と連携を図り、サービス利用をしていない障害者の相談に対応しました。また、利用者に福祉サービスの情報提供をし、適切な利用計画を作成しました。課題としては、障害の特性が多様化しているので、利用者の特性に合った事業所を見つける事が難しい状況です。迅速にサービスに繋ぐことができるよう、施設や事業所の開拓に努めます。

①　適切な利用計画

サービス利用計画作成は平成２９年度６７件で、平成３０年度は７５件と年々増加しています。理由としては障害福祉サービスが周知され関係機関からの情報提供で障害者が積極的にサービスを利用しているからだと思われます。サービス利

用計画作成の研修が少なく学びの場がないのが課題です。

サービス利用計画作成　　７５件（3 月 31 日現在）

②苅田町障害者相談支援事業の受託

他の相談支援事業所から家族支援を一緒に行ってほしいという相談や、福祉サービスには至らないが今後の生活についての相談が家族からありました。しかしながら継続の支援に繋がらないのが今後の課題です。

相談件数

	福祉サービス	医療・疾病	情緒安定	就労相談	その他	合　計
件 数	３１１	９１	８７	１１	４６	５４６

（５）福祉に関する相談窓口の充実

終活相談を開始し、新たな相談の場を設けました。

インターネットの普及により面談での心配ごとを相談することに抵抗感がある人が増え、電話での相談が増えています。

項　　目	開設日	利用者数	相談援助件数
法律相談	１２日	７４人	７４件
心配ごと相談	４６日	９人	９件
身障心配ごと相談	１２日	２人	２件
遺産・相続・多重債務相談	６日	１３人	１３件
終活相談	４日	７人	７件

（６）生活福祉資金の貸付（県社協委託業務）

各関係機関との連携がスムーズに行えたことで緊急小口資金の貸付の相談が増えていますが、貸付後に連絡が取れないなど持続的な自立支援につながっていない場合もあります。

■生活福祉資金貸付状況（本会を介して県社協からの貸付実績）

種類	申請件数	申請金額	決定件数	決定金額
福祉資金	1 件	1,000,000 円	1 件	1,000,000 円
緊急小口資金	27 件	2,437,000 円	27 件	2,437,000 円
教育支援資金	0 件	0 円	0 件	0 円
計	28 件	3,537,000 円	28 件	3,537,000 円

（７）生活困窮者への支援

生活困窮者自立支援事業所や地域福祉課と連携を取りながら生活困窮者に対する相談と自立支援に取り組みました。派遣社員の増加等による人口の流入・流出が多く、継続的な支援が困難となっています。

生活困窮者への支援実績（平成 30 年度）

相談世帯数　82 世帯
相談回数　111 回
食糧支援回数　18 回

相談世帯の内訳（全 82 世帯中）

18 歳以下の子を含む世帯	17 世帯
障害者・障害の可能性がある者を含む世帯	17 世帯
65 歳以上の高齢者を含む世帯	8 世帯
疾病者を含む世帯	17 世帯
その他の世帯（若年単身者等）	23 世帯
合計	82 世帯

■食糧支援

金銭での貸付を極力少なくして、食糧支援を実施しております。

１８件（1,000 円～2,000 円分）

（８）社会福祉法人連絡会

幹事会を年 3 回行い、ふくおかライフレスキュー事業への取り組みに向けて事業説明を行いました。法人連絡会に参加している法人は高齢、障害、子どもの各分野を専門としているので幅広い層からのニーズの把握が見込まれます。現在ふくおかライフレスキュー事業のサポーターが町内で 1 人しかいないのでサポーターの数を増やしていくことが課題です。

①幹事会の開催

内容	期日	法人出席者数	行政出席者数
総会	5 月 14 日	9 人	2 名
第 5 回　幹事会	6 月 28 日	6 人	1 名
第 6 回　幹事会	12 月 20 日	6 人	1 名
第 7 回　幹事会	3 月 5 日	8 人	1 名

②公益的な取組の推進

子育て支援のボランティアグループが実施する子ども食堂の支援を毎月 1 回ずつ行いました。子ども食堂に参加する子供たちが増えても対応できるよう、2 名以上の職員で参加しました。

子ども食堂の支援状況

日時	場所	出席
4 月 20 日（金）17:00～20：00	苅田町中央公民館	2 法人 3 名
5 月 18 日（金）17:00～20：00	苅田町中央公民館	2 法人 4 名
6 月 8 日（金）17:00～20：00	苅田町中央公民館	2 法人 3 名
7 月 20 日（金）17:00～20：00	苅田町中央公民館	1 法人 2 名
8 月 24 日（金）17:00～20：00	与原上区公民館	1 法人 2 名
9 月 21 日（金）17:00～20：00	苅田町中央公民館	1 法人 2 名
10 月 19 日（金）17:00～20：00	苅田町中央公民館	1 法人 2 名
11 月 30 日（金）17:00～20：00	苅田町中央公民館	1 法人 2 名
12 月 21 日（金）17:00～20：00	苅田町中央公民館	1 法人 2 名
1 月 18 日（金）17:00～20：00	苅田町中央公民館	1 法人 2 名
2 月 8 日（金）17:00～20：00	苅田町中央公民館	1 法人 2 名
3 月 15 日（金）17:00～20：00	苅田町中央公民館	1 法人 2 名

４．組織運営・総務業務

（１） 理事会、評議員会、委員会を充実し、ガバナンスの強化に努めます

3 ケ月に 1 回以上の（30 年度は 5 回）理事会の開催をし、業務執行状況の報告、課題の提示、議案の付議をしてきました。また、理事を中心とした委員会による課題解決のための協議を行ってきました。活発な議論がされてきましたが、理事会と事務局との課題共有が十分だったとは言えません。個別の課題については、共有が出来ましたが、全般的に共有が出来ていません。要因は事務局側からの情報提供の方法や内容（例えば理事会の開催回数）の不足が大きいと考えられます。評議員会についても、課題共有の取組の強化が必要です。

①理事会

期日	場所	出席	議題
５月７日	パンジープラザ 会議室	１１名	・協議 企業会員の拡大活動について

６月８日	パンジープラザ 会議室	１０名	・平成 29 年度事業報告 ・　〃　　法人会計決算 　　監査報告 ・評議員選任候補者の推薦 ・心配ごと相談運営規程の改正 ・平成 30 年度定時評議員会の招集
９月２１日	パンジープラザ 健康教室洋室	１０名	・業務執行状況の報告など
１２月１２日	パンジープラザ 会議室	１０名	・平成 30 年度法人会計補正予算（第 1 号） ・　〃　　第2回評議員会の招集
３月２０日	パンジープラザ 会議室	１２名	・基金の取り崩し ・平成 30 年度法人会計補正予算（第 2 号） ・平成 31 年度事業計画 ・　〃　　法人会計予算 ・参与の採用 ・第 3 回評議員会の招集

②評議員会

期日	場所	出席	議題
６月２７日	パンジープラザ 大研修室	１６名	・平成 29 年度事業報告 ・　〃　　法人会計決算
１２月１８日	パンジープラザ 大研修室	１４名	・平成 30 年度法人会計補正予算（第 1 号）

③委員会活動

地域福祉委員会

期日	場所	出席	議題
５月２８日	パンジープラザ 社協応接室	４名	・くすの木作業所就労支援事業の収支状況 ・第 4 次苅田町地域福祉活動計画
１１月９日	〃 〃	４名	・地域福祉活動計画（案） ・職員体制について

財政基盤強化委員会

期日	場所	出席	議題
４月１３日	パンジープラザ	８名	報告 社協会員増大の取り組み 具体的な提案（企業訪問について）
２月１２日	パンジープラザ	８名	３０年度組みのまとめ及び報告 法人会員拡大の取り組み 具体的な提案（企業訪問）

社会福祉大会実行委員会

期日	場所	出席	内　容
４月２４日	パンジープラザ	３名	検討事項 大会日時 大会の内容 予算 スケジュール
６月２４日	パンジープラザ	３名	経過報告 検討事項 表彰者の決定 発表 講演
１０月１６日	パンジープラザ	３名	申込み状況 来賓者の確認 発表 講演 物販

小地域福祉活動検討委員会

期日	場所	内容
５月２２日	パンジープラザ 健康教室洋室	・委員会の開催目的 ・今後のスケジュール ・小地域福祉活動推進の効果と問題点
７月２４日	パンジープラザ 大研修室	・助成金について ・老人クラブとの関係性について
１０月９日	〃	・助成金について

１１月２７日	〃	・活動費助成のあり方について
１月２２日	パンジープラザ 健康教室洋室	・活動費助成のあり方について

くすの木作業所経営検討委員会

期日	場所	出席	内　容
７月１７日	パンジープラザ 健康教室洋室	６名 事務局３名	作業所開設からの経緯 作業所と近隣事業所の状況 協議　収益悪化の要因と改善策
９月２６日	くすの木作業所	６名 事務局３名	事業分析 伊藤理事私案について 改善策事務局案
１０月１８日	パンジープラザ 応接室	６名 事務局３名	改善案の検討
１１月１６日	〃	７名 事務局３名	前回出された意見や課題について 改革案の検討
２月１２日	〃	７名 事務局３名	視察報告 今後の取組

※視察　　期日　　1 月 24 日（木）
　　視察先　　北九州手をつなぐ育成会（北九州市戸畑区）
　　参加　　理事３名　事務局１名

（２）自主財源の確保

①社協会員の拡大

理事会と事務局による拡大プロジェクトとして、企業・団体会員の拡大に努めました。6 班に分かれ 65 社を訪問し、理解と協力を求めた結果、50 社の賛同を得られ、大幅な会費増につながりました。また、会員名簿を整理し、社会福祉大会で配布、窓口に常備、社協だよりやホームページでの掲載を実施し、周知に努めました。ただ、住民会員の拡大には着手できず、全世帯に占める割合は低位のままです。企業・団体会員の拡大と並行して、拡大策を検討する必要があります。

	29 年度		30 年度		増減	
	口数	会費額	口数	会費額	口数	会費額
法人・団体等	27	270,000	83	830,000	56	560,000

個　人	1,682	2,018,400	1,642	1,970,400	△40	△48,000
計		2,288,400		2,800,400		512,000

②自動販売機設置事業、社協まごころ葬祭、販売事業は昨年度を下回りました。

③チャリティイベント

・第６回赤い羽根共同募金チャリティカラオケ演芸会

１０月１４日（日）　中央公民館大ホール　出場者　98 組

来客者約 140 名

共同募金会へ　１２７，７５０円

（３）赤い羽根共同募金運動の推進

10 月～12 月の間で募金運動を行い、295 件の法人や団体等を訪問しました。募金箱（含学校募金）やその他の募金実績は増加しましたが、全体の募金実績としては昨年度を若干下回っています。課題として、新規の法人からの募金がほとんどありませんので、新規の法人へのアプローチが必要です。

・戸別募金　3,851,850 円　　・法人、団体、個人 1,414,771 円

・街頭募金　48,934 円　　・募金箱(含学校募金) 175,666 円

・その他の募金 227,413 円　　・歳末助け合い　775,600 円

（４）社会福祉大会の開催

ひきこもり支援に力を入れている秋田県藤里町社協の会長を招きお話をしてもらいました。苅田町のひきこもり者の実態把握はできていませんが、ひきこもりの人は一定数いると思われます。今後のひきこもり者支援を始めていく上での最初の一歩の場としました。また、社会福祉大会の場を社協会員総会の場も兼ねるようにしました。総会としての内容も今後検討していきたいと思います。

第７回苅田町社会福祉大会

開催日	１１月８日（火）
場　所	パンジープラザ　集団健診指導室
参加人数	約１８５名
内　容	１部　表彰式 ２部　発表「サインランゲージダンス」（手話ダンス） ３部　講演「引きこもりを地域の力に」 講師　社会福祉法人　藤里町社会福祉協議会 会長　菊池　まゆみ　様

５．職員の資質の向上

職員の資質向上に向けて、外部研修には積極的に参加するようにしました。しかし、研修内容について社協内で共有したり、深めたりする取り組みが不十分なものとなりました。今後は係ごとの計画的な研修と並行して外部研修内容の活用に注力します。

①外部研修

期日	場所	研修名	内容	参加者
5 月 11 日	ＪＲ博多シティ	福岡県地域福祉活動職員連絡会及び研修会	・総会 ・講演 「回想からのメッセージ」 大野城市社協　小谷氏	中野
5 月 16 日	クローバープラザ	社会福祉施設役職員新任職員研修	・「期待される職員のマナー・接遇」「組織を円滑にするコミュニケーション」 オフィス新開 代表　新開よし子氏	前畑
5 月 17 日 8 月 1 日	九州ビル	認知症会議実践者研修	・認知症ケアの基本的視点と理念、認知症の理解と対応他	尾形
5 月 19 日	中間市 西日本医療福祉 総合センター	シナプソロジー普及員養成講座	・シナプロジー体験他	山下
5 月 23 日	糸島市社協	民生委員児童委員 一日研修	・はるかぜ子ども食堂	田中
5 月 25 日	飯塚市 コスモスコモン	居宅介護支援集団指導	・介護保険制度改正に伴う説明他	増田 川瀬
5 月 29 日	吉塚合同庁舎	生活支援コーディネーター初任者研修	・生活支援コーディネーター及び協議体とは　他	伊藤
5 月 28 日	クローバープラザ	社会福祉施設役職員新任職員研修	・社会福祉に携わるということ他	前畑
6 月 1 日	飯塚 コスモスコモン	介護保険集団指導	・介護保険制度改正に伴う説明他	立山
6 月 9 日	ウエル戸畑	介護支援専門員協会 研修	・ケアマネジャーが今すべきこと！求められていること！他	増田
6 月 13 日	伊都文化会館	強度行動障がい支援者	・講義	兼重

期日	場所	研修名	内容	参加者
14 日		養成研修（基礎研修）	「強度行動障がいとは」他	
6 月 15 日	大野城市 まどかぴあ	感染症予防研修	・講義 夏に流行る感染する予防対策他	岩田
6 月 21 日	クローバープラザ	生活福祉資金事務 説明会	・制度の現状と課題について他	田中
6 月 20 日 21 日	伊都文化会館	強度行動障がい支援者養成研修（実践研修）	・強度行動障がい支援の原則	兼重
6 月　6 日 20 日	クローバープラザ	社会福祉施設役職員研修（基礎研修）	・燃え尽きない自分つくりのために必要なセルフマネジメントの基本　他	中村
6 月 13 日 27 日	クローバープラザ	法定研修に係る講師･ファシリテーター養成研修	・ファシリテーターとしての心得他	増田
6 月 29 日	吉塚合同庁舎	障害者福祉サービス集団指導	・主な加算の注意点他	岩田
6 月 30 日	芦屋町 中央公民館	あしや助け合い･支えあいの会　講演会	・講演会 ・実践報告　苅田町虹の会 ・パネルディスカッション	山下
7 月 17 日 24 日	九州ビル	会計担当者研修 （初任者研修基礎編）	・講義、演習	山下
7 月 19 日	粕屋総合庁舎	食品制度研修会	・概要及び衛生事項他	岩田
7 月 24 日	クローバープラザ	共同募金会 支会会長事務局長会議	・共同募金運動の方向性と推進方策　他	林会長 福山
8 月 8 日	行橋商工会議所	技術向上研修Ⅱ	・チームコミュニケーション他	中村
8 月 11 日 12 日	ＫＯＫＵＲＡホール	医療的ケア児等コーディネーター養成研修	・コーディネーターに求められる資質と役割	兼重
8 月 20 日	博多区八仙閣	市町村社協会長･事務局長研修会	・「強化方針」を踏まえた社協事業・活動の方向性他	林会長 福山
8 月 23 日	国際会議場	第 2 層「生活支援コーディネーター・協議体」による「つながり」を基盤にした「支えあいの地域	・「つながり」を基盤にした「地域支えあい」の価値を意識しよう	古賀 伊藤

期日	場所	研修名	内容	参加者
		づくり」の進め方		
8 月 28 日	クローバープラザ	日常生活自立支援事業専門員研修	・専門員がめざすべき支援のあり方について　他	田中
8 月 31 日	〃	共同募金会担当職員研修会	・共同募金運動の方向性と推進方策　他	中野
9 月 1 日 2 日	北九州市立総合療育センター	医療的ケア児等コーディネーター養成研修	・演習・計画作成・事例検討他	兼重
9 月 6 日 7 日	ヒルトン福岡シーホーク	九州ブロック地域福祉研究会議	・地域福祉の推進と社会福祉協議会の役割他	福山 中野 田中
9 月 13 日	国際会議場	福祉サービス苦情解決従事者研修会	・「苦情」を福祉サービスの質の向上に活かすには	岩田
9 月 5 日 11 日 12 日	福岡市ＡＲＫビル	相談支援従事者現任研修	・障害者福祉の動向について他	森山
9 月 18 日	三原文化会館	地域密着型サービス事業者集団指導	・介護労働者の労働条件の確保、改善のポイント	立山
9 月 27 日	吉塚合同庁舎	生活支援コーディネータステップアップ研修	・地域アセスメント他	古賀 伊藤
10 月 11 日	毎日西部会館	主任ケアマネ資質向上研修	・主任介護支援専門員の役割について他	増田
10 月 19 日	嘉麻市 夢サイトかほ	住み慣れた地域で暮らしていくために	・先進地の取組から学ぶ他	古賀 伊藤
10 月 23 日	国際会議場	福岡県社会福祉大会	・大規模災害に備えて～今、私たちができること～	林会長 梅田副会長 大村理事 福山
10 月 24 日 ～3 月 5 日 （12 日間）	ウエル戸畑	主任介護支援専門員研修	・主任介護支援専門員が果たすべき役割と視点、知識と技術について他	川瀬
10 月 26 日	天神クリスタルビル	地域への入り方、地域支えあいの見つけ方	・見つけたお宝の活かし方他	古賀 伊藤
11 月 8 日 9 日	萩市社会福祉協議会	民生委員･児童委員一泊研修	・住民主体の地域づくり「地域力を活かそう」他	林
11 月 9 日	毎日西部会館	主任ケアマネ資質向上	・アセスメントについて指導	増田

期日	場所	研修名	内容	参加者
		研修	力を身につける	
11 月 16 日	エイムアテイン博多駅東	地域福祉活動職員連絡会研修事業	・先輩ワーカーの成功の種（しくじり）に学ぶ私たち（ワーカー）のあり方	中野
12 月 6 日	新小倉ビル	介護職員技術向上研修Ⅲ	・地域包括ケアシステムの理解と介護保険サービスの役割	尾形
12 月 7 日	西部毎日会館	主任ケアマネ資質向上研修	・介護保険の基本的な考え方に基づいた自立支援におけるケアマネジメントとは他	増田
12 月 11 日	西部毎日会館	初任者向け実践力向上研修	・自立支援におけるケアマネジメントとは他	葛城
12 月 12 日	福岡センタービル	「社協･生活支援活動強化」普及・促進セミナー	・地域共生社会の実現に向けた事業・活動の展開方策を考える　他	福山 古賀
12 月 15 日	ももちパレス	ネットワークふくおか福岡ブロック研修会	・今、あらためて計画相談を計画相談を考える	兼重
1 月 9 日	ウイズ行橋	日常生活自立支援事業生活支援員養成研修	・生活支援員の役割他	田中
1 月 10 日	西部毎日会館	主任ケアマネ資質向上研修	・加算算定の根拠、アセスメントの重要性について他	増田
1 月 23 日	国際会議場	民生委員･児童委員セミナー	・記念講演 「知己共生社会」の実現に向けた民生委員・児童委員の役割他	古賀 田中
1 月 23 日	毎日西部会館	実務研修にける実習指導者研修	・実務研修にける実習の位置づけについて理解する他	増田
1 月 24 日	クローバープラザ	生活困窮者支援に関する研修会	・社協における生活困窮者支援の推進について	田中
1 月 30 日	〃	福祉教育セミナー	・地域共生社会の実現に向けた福祉教育の可能性他	山下
2 月 5 日	宮若市社会福祉センター	筑豊ブロック地域担当職員研修会	・私からあなたへ～先輩からのメッセージ他	田中

期日	場所	研修名	内容	参加者
			芦屋町社協　安部局長	
2月6日	八幡東区社会福祉センター	地区社協会長会･実務担当者合同会議	・生活支援活動の先進事例について他	山下
2月5日 6日	クローバープラザ	福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程中堅職員コース	・中堅職員の役割やキャリアデサインの必要性を理解する	平川 中村
2月9日	大阪市 東成区民センター	生活支援体制整備を進めるための地域づくりを考える　他	・生活支援体制整備事業と支えあいの地域づくり	古賀 伊藤
2月11日	アクロス福岡	地域を元気にする協議体づくり	・協議体の作り方　他	古賀 伊藤
2月14日	行橋中央公民館	京都行橋地区進路保障研究協議会就学支援学習会	・福岡県文化奨学財団奨学金制度について他	田中
2月14日	毎日西部会館	主任介護支援専門員資質向上研修	・気づきにつながる事例のとらえ方	増田
2月14日	北九州市ＡＩＭビル	福岡県労働教育講座	・働き方改革と労働時間規制他	古賀
2月19日	北九州市	労働経営セミナー	・働き方改革への対応と雇用ルールの基礎知識	古賀
2月23日	小倉医療センター	ＮＰＯ法人ケアマネット研修会	・事例検討会の技術を学ぶ	川瀬
2月25日	クローバープラザ	日常生活自立支援事業関係職員研修会	・初期相談受付とアセスメントの方法について他	中野
2月28日	国際会議場	みんなが主役の元気な地域づくりセミナー	・地域福祉活動の後輩づくり	古賀 中野
3月1日	〃	地域福祉基礎研修事例検討会	・事例検討の意義について他	田中 中野
3月9日	太刀洗社協	地域福祉講座	・地域がつながる情報交換会他	古賀
3月15日	吉塚合同庁舎	市町村地域福祉計画に関する研修会	・市町村地域福祉計画ガイドライン他	〃

②事務局職員内部研修としての地域支援検討会議

毎月１回開催　　出席者：社協職員、包括支援センター、居宅介護支援事業所

月平均　１６人出席

事例提供者の個別課題を地域の問題として捉え、小地域福祉活動を通して独居の認知症の方の見守り体制ができたケースがありました。本人や家族が地域との繋がりを望まない場合が今後の課題です。

６．ケアプランサービス

適正なケアプラン作成の為に、積極的に研修会に参加し、各関係機関との連携を行ってきました。

また今年度は主任介護支援専門員が新たに 1 名増えました。本会への利用ニーズに適切に対応できるよう介護支援専門員の員数の適正化が必要です。

（1）ケアマネジメントにおいて多職種協働・各関係機関との連携を強化

地域包括支援センターと連携し、多くの課題を抱える家族及び虐待が疑われる事例などを情報共有し、支援の方向性を検討しました。

地域ケア会議では個別の課題から地域課題をみつけ、社会資源の開発に向けた提案を行いました。

今後は地域との繋がりを大切にしながらネットワークを構築していけるように生活支援コーディネーターと連携を強化していきます。

（2）　自立支援を目標に適切なケアプランの作成

自立支援を目標に適切なケアプランとなるよう、本人・家族の希望を聴視し、アセスメントに基づき専門的な立場から相談・助言を行いました。またフォーマル・インフォーマルサービスを問わず多様なサービスを活用し、総合的・効果的なサービス提供が行われるように努めました。

（3）地域への広報活動・介護保険の理解促進

社協広報誌「手をつなごう」へ広告を掲載し、事業所の周知を図りました。しかし地域へ出向き、住民への介護保険・居宅介護支援事業所の役割の周知については社協内での調整がつかず十分にはできませんでした。

（4）特定事業所加算算定事業所としての役割の遂行

地域の介護支援専門員に対するスーパーバイズ機能を強化できるよう、苅田町介護支援専門員連絡会・主任介護支援専門員部会に参加しネットワークの構築を図りました。今年度は 1 名が主任介護支援専門員の研修を受け、計 2 名の主任介護支援専

門員になりました。

H30 年度担当件数の推移

月	要支援	要介護	月	要支援	要介護
4 月	0	99	10 月	1	98
5 月	0	98	11 月	1	101
6 月	0	98	12 月	1	98
7 月	0	92	1 月	1	95
8 月	0	92	2 月	1	93
9 月	1	88	3 月	1	97

７．多機能型事業所くすの木作業所

サービス種類　　就労継続支援Ｂ型・生活介護

平成２９年度の自立支援給付費部分の収支が単年度赤字（450 万円程度）、３０年度も同様に赤字（260 万円程度）となりました。収支悪化という施設経営の厳しい状況を受けて「くすの木作業所経営検討委員会」が設置され、今後の対応が協議されてきました。５回の委員会の協議及び視察研修を経て、職員の専門性・赤字への対応・夢の木の運営・経営の将来見込み・事業の意義など様々な問題課題が明らかになりましたが、課題の焦点化と共有、改善策の確定までには至りませんでした。そこで、現場から問題点を洗い出し、出来ることの改善を進めながら、解決すべき課題を明確にし改善策につなげるために、改革担当参与として専門的なスキルの高い人材を採用することとしました。今後、３か月に１回程度の経営検討委員会を開催する中で、参与からの報告を受けて改革の方向を見出していくことになります。

くすの木作業所利用者の工賃アップを目指し、生産活動の核として菓子製造販売「ラパン」が開始から３年、レストラン「夢の木」は５年が経過しました。工賃アップに寄与している部分と出来ていない部分、大きな夢と可能性を抱きながらも実現までのハードルは低くありません。

項　目		29 年度	30 年度
利用者数（延べ）		3,807 人	3,817 人
レストラン売上（月額平均・配食除く）		1,365,855 円	1,424,159 円
菓子売上（月額平均）		473,359 円	404,288 円
工賃月額（一人当たり）	全　体	14,447 円	13,256 円
	レストラン	33,158 円	28,543 円
	レストラン以外	9,087 円	8,824 円

（１）生産活動

工賃倍増生産活動

①菓子製造販売事業

毎月の売り上げ目標平均６０万円とし、アドバイザー（里山商会：吹上氏）による、指導のもと、製造販売を展開しました。毎月のスタッフ会議で、ポップの作成、商品陳列法、販売履歴の管理法、パンフレットの作成、毎月の販売対策等の内容を指導して頂きました（別紙：吹上氏報告書参考）。この指導により、製造販売に関しほぼ素人のスタッフが仕入れや原価計算、商品開発などのスキルアップにつながったと考えています。

新しい取り組みとして、クリスマスケーキ、バレンタインＤＡＹとホワイトＤＡＹに因んだ商品を企画し販売をしました。中でもバレンタインＤＡＹの商品は日産自動車の協力が得られ、大きく販売額を伸ばしました。行事等での臨時販売を強化し売上増を図り、毎月第１日曜日の苅田えきらく大市に出店するなどしましたが、行事のない月の売上が極端に落ち込むことにもなりました。販売場所は、全部で１２か所での販売になっており、北九州空港の販売が少しずつ実績を伸ばしています。

しかし、このように売上アップの努力は続けていますが、月間売上目標の６０万円のハードルは高く工賃アップにつながっていません。一般的に焼き菓子類の購買が落ち込む６月～９月の暑い時期の対策や、商品力の弱さ、販売体制の弱さなど、その要因は様々考えられますが、最も大きなものは「ＬＡＰＡＮ」ブランドの弱さにあると考えられます。今後はその「弱さ」の克服を一歩ずつ進めるための対策が急務となります。

②レストラン事業

工賃は、利用者に時給６００円の工賃を支給し、現在、１日３～４名の利用者がレストランにて従事しています。目標の工賃は達成していますが、従事する利用者は変わらず、目標の８名には程遠い状況です。利用者の仕事ぶりついては、少しずつ出来ることが増えており、レストラン業務になくてはならない存在になってきています。

売り上げについては、お昼の配達弁当が徐々に伸びつつあり、１日平均２５個の販売でした。予約弁当も不定期ですが入っており、売上増に繋がっています。しかしながら、特に地域行事などにおいて販売のチャンスを逃していることも考えられ、今後は開拓の必要があります。

毎月の収支で見れば、赤字の月もありました。要因としては、人件費の比率が高い傾向であることや夏場の野菜の高騰が考えられます。今後はスタッフ配置や販売価格の見直しも必要と考えます。

また、ベテランの調理長が退職することになり、いわゆる専門スタッフがいなくなるので新年度は調理業務に支障が起きないようにすることが課題となります。さらに日曜日の予約弁当の対応のために、調理員の休日出勤配置なども課題となります。

③基本的生産活動

各作業（割箸・手芸・名刺・部品加工）を班制度化し、割箸班・部品班・印刷班・手芸班　毎月の作業量、工賃収入ともに安定の兆しが見えます。

手芸班は「第１２回くすの木作業所作品展」を実施することにより、技術が向上し、多種多様の作品を作ることが出来ました。近隣の作業所の出展協力もあり、この作品展を通して多くの地域の人々と交流することができました。今後定着化に向け日々作品作りに努力します。また苅田町より、「障害者の日」啓発物品製作依頼があり、コースターを４１０枚を納めました。

印刷班は名刺カラー印刷・はがき印刷・封筒印刷の作業が技術向上し、これにより工賃収入も安定してきました。４月は名刺印刷、１１月末からは年賀ハガキ印刷が繁盛期でした。受注から納品までのスピードアップ化に努力しました。また、名刺は役場職員を中心に地元企業の取引が安定しました。１２月の年賀ハガキ印刷は一定の顧客確保ができました。

部品班は、ペットボトルのキャップの仕分け作業を７月から始め、月に１度の納品をしています。

お茶の販売を行い、町や団体より注文があり不定期ではありますが、実績を積み重ねています。（ペットボトル５００ｍｌ　１００円税込）

④ボーナス支給販売活動

夏・冬の年２回、ボーナスの財源を確保する為に物品販売（カタログ販売）を行い、利用者に平均約１万円のボーナスを支給しました。

（２）利用者の募集活動

１日の利用者実績を２０人とし、その目標に向け活動をしました。

特別支援学校の実習生の受入　実績高等部２名
特別支援学校の見学者の受入　実績中等部２名
相談支援事業所の訪問

今年度の実績として、８月に生活介護１名が、３月に生活介護２名が利用開始し、３名の利用者増となりました。今後も、特別支援学校の進路担当教諭と連絡を大切するとともに、相談支援事業所との連携にも努め、利用率を上げてまいります。

（３）日常生活訓練

仲間の当番表を作成し、毎日仲間で協力し合い日中生活の役割をそれぞれの係が取り組みました。

朝の会・帰りの会の司会と記録、昼食・お茶休憩時のお茶係と机拭き係とテレビ係、作業時の材料係、掃除のゴミ係・掃除機係・ホウキ係

施設宿泊研修（第１７回仲間の旅行）熊本県阿蘇旅行の実施により家族から離れて、グループで宿泊する貴重な体験ができました。

年２回火災避難訓練を実施し､訓練をする事によりスムーズに避難をすることが出来、また防災意識も高まりました。

夕食と朝食の提供支援をしました（一人暮らし利用者の支援）

（４）利用者（仲間）の活動

仲間の自治会活動は｢仲間の話し合い｣を毎月第１月曜日に実施し定例化しました。仲間の自治会活動を定期的に実施したことにより仲間の自治に関心を持つことできました。

「仲間の活動の日」毎月１回を定例化し、仲間のバスハイク・買い物・カラオケ大会・忘年会等を行いました。

地域の作業所と交流することで、様々な仕事の取り組み方を学ぶことができました。またなかまの仕事に対する意欲を向上させることができました。他団体との交流を持つことにより、活動の場が広がり外に出るチャンスを得ました。

「仲間の旅行実行委員会」を組織し、月２回委員会をしました。委員の仲間は旅行の企画を担当して、大分竹田市に１泊２日の旅行を実施しました。

◆きょうされん活動

きょうされん福岡支部仲間部会の活動に仲間２名参加

仲間部会の役員会に県北ブロックの責任者として参加

仲間の学習会実行委員会に参加し、積極的に意見交換と交流をすることができました。（クローバープラザにて開催）

福岡支部仲間部会と福岡県の懇談会に参加し、県内の作業所の仲間たちとともに意見交換ができました。

◆県北ブロック仲間の活動

仲間の会議に参加（仲間の交流会実行委員会）

仲間の交流会に参加

第２１回仲間のふうせんバレーボール大会出場（田川市体育館）

第２６回仲間の交流会　新年会　（スコーレ若宮）

毎月１回の県北ブロック職員会議に出席し、仲間の活動の連絡調整や地域の作

業所の情報交換、職員の実践交流ができました。

（５）地域交流活動

「第１２回くすの木作業所作品展」を開催し、町民や近隣の方々と交流
（来場者約６５０名）
築城特別支援学校の見学や実習生を受け入れ
中等部の現場実習６月
高等部の現場実習６月・１１月
町立中学の職場体験学習の生徒の受け入れを毎年行っています。
第１８回地域交流もちつき大会を実施し、地域の皆さんと交流、お餅をたくさん食べ楽しい行事となりました。
地域での行事に参加し、地域の方にくすの木を知ってもらうことができました。
苅田町障害者スポーツレクリエーション大会の参加
ボランティア団体との交流（行事協力）

日産エルダークラブ	地域交流もちつき大会
日産車体九州労働組合	第１２回作品展
苅田町文化協会	第１２回作品展

（６）利用者の健康管理

嘱託医師による健康相談　毎月第１木曜日
看護師による週１回のバイタルチェック
年２回春と秋の定期健診の実施
健康検査結果表の管理　　結果による再検査の指導
利用者通院・服薬の記録
食後の歯磨きやうがいの実施
定期的に軽スポーツを実施　ふうせんバレーの練習
昼休みのウォーキング　（希望者）

（７）家族の会の活動

家族懇談会を年４回開催
家族交流会の開催

夏の家族交流会	食事会	くすの木
冬の家族交流会	新年会	くすの木

（８）親の学習会の実施

家族懇談会の中で障害者総合支援法の学習会やグループホームの学習会

を行いました。

作業と販売の支援

作品展での喫茶コーナーのお手伝いをしていただきました。

８．認知症対応型通所介護　在処よってけばぁ

認知症の利用者一人一人の尊厳を大切にし、在宅支援と寄り添う介護を実践していますが、30 年度は前年度に比べ一日平均利用者数は 2.5 人減っています。これは利用者が入院や入所をした事が原因だと考えられます。居宅介護支援事業所等にもパンフレットを持っていき案内をしていますが新規の利用者が増えない状況が続いています。今後は職員体制、業務内容を見直し、また小地域福祉活動のいきいきサロン等にも参加し在処の存在をＰＲしていきます。

年間延べ利用者数　1810 人

月平均利用者数　151 人

一日平均利用者数　5.9 人

利用状況表

	生きがい	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	延利用者数	保険外利用者数	実日数	一日平均の利用者数	宿泊利用者数	登録者数
4月	0	8	11	52	48	9	11	5	144	3	25	5.8	0	17
5月	0	4	24	73	41	13	19	6	180	8	27	6.7	1	19
6月	0	0	22	81	37	10	6	5	161	4	26	6.0	0	19
7月	0	0	20	83	32	11	0	6	152	5	25	6.1	1	18
8月	0	0	24	74	33	11	2	5	149	2	27	5.5	2	17
9月	0	0	30	75	31	9	0	7	152	3	25	6.1	0	16
10月	0	2	29	80	17	20	0	9	157	4	27	6.0	0	19
11月	0	4	28	75	32	11	0	7	157	4	26	6.0	0	19
12月	0	6	29	68	28	5	0	7	143	3	24	5.9	0	18
1月	0	7	27	57	28	0	0	6	125	4	24	5.2	0	16
2月	0	4	31	59	30	0	0	3	127	2	24	5.3	0	19
3月	0	4	28	75	51	0	0	5	163	4	26	6.3	3	19
計	0	39	303	852	408	99	38	71	1810	46	306	5.9	7	216